

神奈川県藤沢市の国道1号線にある「遊行寺坂（ゆぎょうじざか）」は、境川にかかる藤沢橋へ向かって段丘崖を下っていく坂です。交通量の多い幹線道路でありながら、春には坂の両側にツツジや新緑が広がり、街の中にあっても季節のやわらかな気配を感じさせてくれます。

この坂は二つのことでよく知られています。一つは、作家・山本周五郎ゆかりの地であることです。周五郎は、この坂や遊行寺（清浄光寺／しょうじょうこうじ）界隈の風景を身近に見つめていました。その土地の空気は、作品「遊行寺の浅」にも通じています。この作では、遊行寺門前に生きる女性・浅を中心に、貧しさや世間の目にさらされながらも、ひたむきに生きる人間の姿が描かれます。華やかな物語ではありませんが、弱い立場に置かれた人へのあたたかなまなざしに、周五郎らしさがよく表れています。

もう一つは、正月の箱根駅伝における難所としての顔です。見た目にはなだらかでも、高低差のあるこの坂は選手たちの脚にじわじわとこたえ、特に上りになる復路のレースの流れを左右する区間として知られています。

春の遊行寺坂は、文学と駅伝という二つの記憶を背負いながら、今日も静かに藤沢橋へと下っていきます。車の流れの中に見える坂の曲線や、緑に縁どられた斜面の景色を眺めていると、ここが単なる交通路ではなく、長い時間の積み重なった場所であることがよくわかります。

(2026年4月下旬／神奈川県藤沢市)

